

## 解説

英文法の指導を受けるときに不可欠な、最小限の基礎用語を一覧する。

完全に理解できるまで、何度も繰り返し参照すること。理解できたものは □ にチェックするとよい。

## ■ ことばの単位：

- 【文字・語・句・節・文・段落・文章】

※ふつう、右に行くほど単位は大きくなる

## ① 句 (phrase)

- 2語以上からなる意味のまとまりのうち、  
〈主語＋動詞〉の構造が中心でないもの。  
□ 品詞的役割によって、名詞句・副詞句・  
形容詞句などがある。

- 【注意】 慣用的に、例えば「名詞句」を  
単に「名詞」ということがある。

- homework to do 「するべき宿題」

※全体で名詞(句)。to do の不定詞は、  
名詞 homework を形容(修飾)するので  
形容詞(句)。

## ② 節 (clause)

- 2語以上からなる意味のまとまりのうち、  
〈主語＋動詞〉の構造が中心であるもの。

- 1つの文が、文の中心となる主節と、  
それが従える従属節を持つことがある(複文)。

- 従属節には、品詞的役割によって、  
名詞節・副詞節がある。

- If it is fine tomorrow, (we will go  
camping). 「明日晴れたら、(私たちはキャンプ  
に行く予定だ)。」 ※条件を表す副詞節。

- (I didn't know) that he is a police officer.  
「彼が警察官だということを(私は知らなかつ  
た)。」 ※主節の動詞 know の目的語である名  
詞節(that節)。

※どちらの文も複文で、( )内は主節。

## ■ 品詞：

- 【名詞・動詞・形容詞・副詞・接続詞・前置詞】

## ① 名詞 (noun)

- 人、もの、ことを表す語句や節のこと。

- 慣用的に、名詞句や名詞節を表すことがある。

- people 「人々」、movie 「映画」、  
car accident 「自動車事故」(名詞句)

- 「～すること」の意味を表す言葉のまとまり。

- that he likes watching movies  
「彼が映画を見るのが好きだということ」

※全体は名詞節、watching movies 「映画を

見ること」は名詞句。

- 主語(S)や目的語(O)や補語(C)になる。

- (S) People like (O) watching movies.

「人々は映画を見るのが好きだ。」

- (S) That was (C) a funny movie.

「それは笑える映画だった。」

- 3つの格(主格・所有格・目的格)を持つ。

- 例：I (主格)、my (所有格)、me (目的格)

※ただし、代名詞の例。

## ② 動詞 (verb)

- (名詞の) 動作や状態を表す語(句)のこと。

「～する、～の状態である」の意味を持つ。

- eat 「食べる」、work 「働く」

am/is/are 「状態である、存在する」

- 一般動詞と be 動詞に大別される。

be 動詞：現在形が am/is/are の動詞のこと

一般動詞：be 動詞以外の動詞のこと

- 準動詞になる。

準動詞とは、述語動詞以外で使われる、

動詞が変形したもののこと。

to 不定詞 (to do) ・ 動名詞 (-ing 形) ・

現在分詞 (-ing 形) ・ 過去分詞 (-ed 形) など。

## ③ 形容詞 (adjective)

- 名詞の状態を形容する語句のこと。

- tall 「背の高い」、funny 「笑える」

- 比較級と最上級を持つものがある。

- taller 「より背の高い」

funnier 「より笑える」 ※比較級

- tallest 「もっとも背の高い」、

funniest 「もっとも笑える」 ※最上級

- (主に前から) 名詞を限定修飾する(限定用法)。

- funny movie 「笑える映画」

※ funny が movie の種類(状態)を限定

- (主に後ろから) 名詞を説明的に修飾し、

主語や目的語の補語になることが多い

(叙述用法)。

- (S) The movie was (C) funny.

「その映画は笑えた。」

※ C は主語 S を補足する〈主格補語〉

- I found (O) the movie (C) funny.

「私はその映画が笑えると思った。」

※ C は目的語を補足する〈目的格補語〉

## ④ 副詞 (adverb)

- 名詞以外を修飾する語句、節のこと。
- 〈時〉・〈場所〉・〈理由〉・〈手段〉・〈頻度〉・〈程度〉・〈条件〉などを表す。
- very (tall) 「とても (背の高い)」  
※形容詞 tall を修飾して程度を表す。
- (I) often (go) to church.  
「(私は) よく、教会に (行く)。」  
※ often は頻度、to church は場所を表す副詞 (句)。どちらも動詞 go を修飾する。
- 比較級と最上級を持つものがある。
- faster 「より速く」、  
more slowly 「もっとゆっくりと」 ※比較級
- fastest 「最も速く」、  
most slowly 「最もゆっくりと」 ※最上級

## ⑤ 接続詞 (conjunction)

- 対等なものを接続する〈等位接続詞〉と、文の主節に従属 (従位) 節を接続する〈従属 (従位) 接続詞〉がある。
- 等位接続詞には、and 「〜と」、or 「〜あるいは」などがある。
- (he) and (she) 「(彼) と (彼女)」
- 従属接続詞は従属節を導く。  
名詞節を導く that 「〜ということ」や、副詞節を導く when 「〜のとき」、because 「なぜなら〜」などがある。
- (I didn't know) that he has brothers.  
「彼に兄弟がいることを (私は知らなかった)。」  
※ that は he 以降を導く従属接続詞。  
この例では主節の動詞 know の目的語となる名詞節 (that 節) を導いている。
- When I was young, (I cried easily).  
「小さかったとき、(私は泣き虫だった)。」  
※ when は I 以降を導く従属接続詞。  
この例では時を表す副詞節を導いている。

## ⑥ 前置詞 (preposition)

- 名詞の前に置かれ、その名詞を含めて副詞句を作る。
- (He put the key) in (the box).  
「(彼はそのカギをその箱の) 中に (置いた)。」
- 前置詞に続く名詞を前置詞の目的語という。  
上の文では、the box が前置詞 in の目的語。  
in the box 全体は場所を表す副詞句で、動詞 put を修飾している。

## ■ 文の要素：

- 【主語・(述語) 動詞・目的語・補語】
  - 英文は、文の要素を正しい順番に並べることで、文法的に正しく成立する。
  - ① 主語 (S : subject)
    - 節における、動詞の動作主を表す語句のこと。
    - 必ず名詞 (名詞句・名詞節)。
    - 日本語の「〜は、〜が」にあたる。
  - ② (述語) 動詞 (V : (predicate) verb)
    - 節における、主語の動作や状態を表す語句のこと。
    - 述語動詞は、節全体の構造 (文型) を決定し、1つの節に1つだけある。  
※品詞における動詞が語であるのに対し、文の要素における (述語) 動詞は、助動詞などを含む「意味のまとまり」を指すものと考ええる。
    - 日本語の「〜する、〜の状態である」にあたる。
    - 目的語をとるものを〈他動詞〉、とらないものを〈自動詞〉という。
    - 〈動詞+前置詞/副詞〉からなる句が1つの動詞の意味になるとき、この句を〈句動詞〉という。  
(\*〈動詞句〉とはいわない)
  - ③ 目的語 (O : objective)
    - 動詞に続く、動詞の「動作の目的や対象」を表す語句や節のこと。
    - 必ず名詞 (名詞句・名詞節)。
    - 日本語の「〜 (主にもの) を」を表す〈直接目的語〉と、「〜 (主に人) に」を表す〈間接目的語〉がある。
    - 前置詞が導く副詞句において、前置詞に続く名詞を〈前置詞の目的語〉という。
  - ④ 補語 (C : complement)
    - 主語または目的語を補足する語句や節のこと。  
主語を補足する補語を〈主格補語〉、目的語を補足する補語を〈目的格補語〉という。
    - 名詞 (句・節) が形容詞 (句)
- 【重要】副詞 (句・節) は文の要素に含まれない。  
よって、なくても文法的に正しい文が成立し、置く順番も比較的自由なのが特徴である。